

は～もにいい

Harmony

南相馬市

「は～もにいい」には、「調和」や「和音」という意味があります。男女がお互いに尊重し、支え合い、仕事と家庭のよりよいバランスを考えていくことによって、より心地よくもっと心に響くハーモニーを奏でられたら……そんな願いをこめて本紙に名付けました。



主な内容

CONTENTS

- それぞれの介護事情
ー介護にかかわる男性の座談会よりー
- インタビュー
技術系女子に注目！
- 子育て応援基金助成団体紹介
小高こっこくらぶ

第2号

2010年秋号

それぞれの介護事情

～介護に関わる男性の座談会より～

介護保険がスタートして10年が経過しました。
家族介護者の負担解消や「介護の社会化」を実現するための介護保険制度。
この10年で大きく変わったことは、男性介護者が増えたこと。
今や介護者の3割が男性の時代です。
今は元気でもある日突然… 介護する人、される人になるかもしれません。



介護する立場や状況が違う3人の男性の方にお集まりいただき、日常生活の中で気をつけていること、感じていることをお話いただきました。
三人三様の介護事情がありますが、それぞれの心構えや心持ちを伺うことができました。



かんだ かおる
神田 薫 さん

70歳代。原町区在住。
妻（70歳代）は、市内の施設に入所している。息子夫婦と同居。

15年ほど前から親を在宅でみておりましたが、10年ほど前から妻に介護が必要になり、現在、妻は特別養護老人ホームに入所しております。



あべ たけし
阿部 武喜 さん

60歳代。原町区在住。
妻と妻の母（90歳代）との3人家族。妻が在宅で母を介護（3年間）。

妻の母を在宅で介護しております。主な介護者は妻ですが、週一回のデイサービスへの送迎等、妻をサポートする形で介護に関わっております。



えんどう かずお
遠藤 和男 さん

50歳代。小高区在住。
母親（80歳代）を弟とともに在宅で介護（3年間）。自営業。

私の場合は、ちょうど3年前、突然母が歩けなくなり、はじめの3ヶ月は病院に入院していましたが、退院しなくてはならなくなり、歩けない状態で、介護の知識もないまま在宅介護に入りました。

介護に関わるにあたって、苦労した点や心がけていることは？

神田：妻は施設に入っておりますが、毎日のように朝7時に行って、食事の世話をしたり、話すことができない妻のために季節のニュースを教えています。午前10時頃行くと、寝顔しか見られませんが、他の入所者の方とおしゃべりしてきます。話し相手がいるととても喜んでくれて、歌まで歌い始めます。うちの場合、在宅での介護は難しいので、施設のお世話になっていますが、施設に任せきりではダメだと思っています。時々行って、話をしてくるべきではと思い、毎日通っています。

阿部：うちの場合は、母の介護から家のことまで妻にがんばってもらっている部分が多いのですが、そんな中でも、できるだけ母との会話を重ねて、コミュニケーションをとるように心がけています。高齢の母ですが、自立心を大切にしながら、一生懸命、明るく楽しく日常生活が送られればと思っています。

遠藤：退院間際に、看護師さんから、おむつの替え方や車いすでの移動のことなど数回指導を受けただけで突然、介護の世界に入ったので、戸惑うことばかりでした。特に、退院して間もない頃は、頻繁に母の具合が悪くなり、病院に度々運ばれたり、深夜に訪問介護でお世話になったりと大変でした。

以前は家のことは母が全てしてくれていたのですが、食事1つにしても大変でした。母は歯茎でかむので、料理はやわらかく作らないといけません。はじめの頃は、2時間おきにおむつをチェックしながら、3時間ぐらいかけて料理をしていました。圧力鍋を使うとかいろいろ方法はあったのですが、試行錯誤の連続でした。塩分やカロリーも考慮しなくてはいけないのですが、最近では少し慣れて、どの店の物そのまま使えるとか、周囲の方から簡単な料理法を教わったりして、いろいろわかってきました。

24時間介護に追われている状態なので、仕事の方はほとんどできずにいます。

これからの介護に関わる環境について感じていることは？

神田：これからは、男もいつ介護する側になってもいいように、洗濯、炊事ができないと困るでしょう。それから、高齢者、特に一人暮らしの老人は会話をほしがっています。訪ねていくのを待っていてくれます。また、これからは男性の介護者がより求められるのではないのでしょうか。

阿部：やはり会話は大切だと思います。特に、孫、ひ孫の世代とのかかわりは刺激になるのではないのでしょうか。それから、在宅介護の資格ということではなく、誰でも介護の知識を得られるような制度をどんどん設けてほしいと思います。自分の家族を一日でも長くみられるための知識を。

遠藤：同じような状況で介護をされている方によく声をかけていただき、とても心強くありがたく思っています。今後とも地域を含めたサポート体制がより重要になってくるのではないのでしょうか。



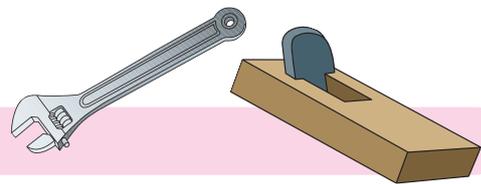
座談会を終えて

これまで、女性のイメージが強かった介護の現場も、関わる男性の割合が増えてきた今、周囲のサポート体制の充実が必要とされていることを痛感しました。

座談会の中でも、今までと違う生活へのとまどいや要介護者を見守る家族や話を聞いてくれる存在の大切さが話題になりました。

誰もが、いつ、どんな形で携わることになるかわからない介護。いざという時のためにも、少しでも意識を高め、情報を得ておくことは、決してむだではないのではないのでしょうか。

技術系女子に注目！



夢に向かって技術をみがいている福島県立テクノアカデミー浜の女子学生にインタビューしました。

現在、テクノアカデミー浜には、職業能力開発校として機械技術科、自動車整備科、建築科があります。ほとんどが男子学生ですが、今回、数少ない女子学生にインタビューし、彼女らの静かな闘志を聞いてきました。



福島県立テクノアカデミー浜 職業能力開発校

機械技術科

製品の加工技術だけでなく、設計から検査まで一連の技術を習得して、「機械加工技術のエキスパート」を目指します。

自動車整備科

国土交通省の「2級自動車整備士養成施設」です。メインとなる就職先はディーラーで、お客様の心も和やかにできる「接客できるサービスメカニック」を目指します。

建築科

伝統木造建築の「設計・施工・管理」技術を習得し、「伝統建築の匠」を目指します。また、木造建築だけでなく幅広い分野の構造物についても体系的に学びます。

あつみ ゆき
熱海 友紀 さん

機械技術科（いわき市出身）



両親が弱電関係の仕事をしていたので、機械加工は身近に感じていました。学科は当初の志望とは違う分野になってしまいましたが、前向きに考え、新しい自分発見のため積極的に学校生活を楽しんでいます。

学校の雰囲気もよく、先輩との壁もなく、和気あいあいとした生活をしています。

学習面でも、先生方も1人1人に対応してくれて、学科ばかりではなく、実習も多く取り入れているため、偏りなく充実した生活を送っています。

将来については、あえて男性の多い分野を選び専門職として活躍したいと考えています。結婚後も、出産後も仕事を続けることはもちろんですが、仕事も子育ても両立し、自分の仕事を認めてくれることが大事だと考えています。

ぐんじ みほ
郡司 美帆 さん

自動車整備科（田村市出身）

高校卒業後一度、郡山市で事務職として就職しました。

しかし車好きが高じて、自動車整備士になるための道を歩みました。

そもそも女性の整備士の方が郡山市にいることをしり、それが刺激になって、整備士になりたいと思いました。

学校は、男子ばかりですが、今まで友達は男子が多く、男子の中に入ることに不安はありませんでした。

将来は、ディーラーに勤めて、結婚後も整備士として勤めて行きたいと考えています。夢は、女性だけの整備士による自動車整備工場をつくることです。



もんま えり
門馬 衣里 さん

建築科（新地町出身）



南相馬市内の高校を卒業して、テクノアカデミー浜に入学しました。

高校時代は、女子が多い学校でしたが、周りの男子生徒も親切でとても楽しく学生生活を送っています。

もともと設計に興味があり、コンピュータを使って設計をしたくてこの学校を選びました。

学校は、男女ともに仲が良く、先生方も丁寧に教えてくれて授業も分かりやすく、いい雰囲気勉強をしています。

今後は、学校で学んだ技術を生かし、未来の匠を目指し、図面に向かいながら、がんばっていきます。

インタビューを終えて

3人とも男子との体力の違いによって、実習の工程が遅れることや、男子の手を借りながら、力を要する実習を行っていることで、「悔しい」という言葉ができました。

しかし、その悔しい思いを工夫すること、技術的な面で生かすことに考えを向けていけば、それぞれがすばらしい技術者として活躍できるのではないのでしょうか。

結婚しても子どもができて、仕事を続けることは、当然のように考えているようです。

「夫が専業主夫でもいい？」の質問に3人とも肯定的に考えていました。それは、自分が手に技術を持ち、それを生かして仕事を持つことができる強みからでしょうか。頼もしくさえ感じました。

また、職業の選択や給料の額に男女の差があることが3人とも不満を持っていました。女子というだけで決め付けられること、個人としてみてほしいことなどを訴えていました。

南相馬市 子育て応援基金助成事業

南相馬市では、子育てを社会全体の課題として捉え、地域全体で支援する体制づくりを推進することを目的に「南相馬市子育て応援基金」を設置しました。今年度、この基金を活用して子育て支援活動を行う7団体に助成しています。その中のひとつ「小高こっこくらぶ」の活動を紹介します。



平成23年度の助成事業は、1月に募集します。
お問い合わせは男女共同こども課へ。

子育て応援基金助成団体紹介 「小高こっこくらぶ」

「小高こっこくらぶ」は、2003年（平成15年）に子育て中の親子が気軽に集まって活動する場として設立されました。当時、小高保健センター主催の「ひよこクラブ」で出会った仲間を中心に、卒業後もみんなで集まって遊んだり子育ての情報交換をしたいと思い、定期的に活動することを決定、初めての方（新しい方）でも気軽に入れるようにサークルという形にしました。

現在の主な活動は月2回、うち1回は、ママ同士で子育ての情報交換、自由遊び、季節の行事（お花見、バーベキュー、クリスマス会）などを行い、その他は子育て応援基金を利用した、子育て勉強会を実施しています。今年度は「子育てママの心のケア事業」と題し、子育て心理学セミナーや講演会を企画しています。

「心のバリアフリー講演会」のお知らせ

日時 11月23日（祝）午後1時30分～
場所 浮舟文化会館
講師 心理カウンセラー 長谷川泰三氏
「車椅子は接着剤～出会いは子育て人育て」をテーマに講演会を開催します。どなたでも参加できます。無料託児有り（要予約）。
詳しくは☎44-4056（玉川洋子さんまで）



この情報紙は、南相馬市男女共同参画計画推進委員会の情報紙部会の委員が企画・編集しました。

編集後記

●「介護座談会」は、出席された方々に終始リードされ、元気に闊達にバイタリティあふれる言葉に圧倒され通してでした。わたしだったらこんな風になれるのかなあと・・・

（二瓶）

●猛暑が続き、今年の夏は大変でした。取材、原稿づくりにと皆さんと共に検討を重ねてつくりあげたものです。これからも微力ながら頑張ります。

（木幡）

●取材で県立テクノアカデミー浜に行ってきました。男性が多い専門分野へ将来の目標をしっかりと持った若い女性パワーに関心。礼儀正しい姿にこの夏の暑さを忘れさせる清々しいひと時でした。

（穴澤）

「は～もにい」への意見・感想などをお寄せください。また、男女共同参画で頑張っている方、職場の情報などをお寄せください。

発行：南相馬市健康福祉部男女共同こども課 〒975-8686 南相馬市原町区本町2-27
TEL / 0244-24-5215 FAX / 0244-24-5740
ホームページ <http://www.city.minamisoma.lg.jp/>